デジタルボイス

メール・カウンセリングの現場から

安藤 房子

平気で他人をいじめる モラハラリストにご用心！

と。

もうひとつは、権力を持つ人が、自分より地位の低い人に対し、権力にものを言わせるかたちで精神的ないじめ・暴力・嫌がらせをするというもので、いわゆるパワーハラスメントと呼ばれているものである。

よくテレビなどでは、職場における最近、モラルハラスメントに関する相談が多い。読者のみなさんもすでにご存じだと思うが、モラルハラスメントとは、言葉や態度、文書や身ぶりなどによって、他人の尊厳や人格を傷つけたりすること。また、精神的または肉体的に傷つけ、その相手がどうしようもなく悩んでしまうような状況に追いやったり、相手の気分を害することである。

モラルハラスメントという言葉は、フランス人の精神科医マリーフランス・イルゴイエンヌという女性が、自身の書籍の中で触れ、世界に広まった。

彼女が言うモラルハラスメントは、大きくふたつに分かれる。ひとつは、自己愛の強い性格の人による、精神的ないじめ・暴力・嫌がらせなどのこと。

もうひとつは、権力を持つ人が、自分より地位の低い人に対し、権力にものを言わせるかたちで精神的ないじめ・暴力・嫌がらせをするというもので、いわゆるパワーハラスメントと呼ばれているものである。

よくテレビなどでは、職場における最近、モラルハラスメントに関する相談が多い。読者のみなさんもすでにご存じだと思うが、モラルハラスメントとは、言葉や態度、文書や身ぶりなどによって、他人の尊厳や人格を傷つけたりすること。また、精神的または肉体的に傷つけ、その相手がどうしようもなく悩んでしまうような状況に追いやったり、相手の気分を害することである。

モラルハラスメントをとりあげているが、最近では、夫婦間、恋人間など、さまざまなモラハラの相談をいただく。

長年連れ添った夫婦の場合には、夫が妻にモラハラしているケースが多い。たとえば、奥さんの作ってくれたご飯を「おいしい」とも言わずもくもくと食べ、のどが渇くと「お茶！」と一言だけつぶやき、奥さんが日々家のことをしてくれていることにたいして「ありがとう」の一言も言わない。妻と、勝ち気な女性というカップルに、その傾向が強い。一緒に住んでいるのに家事をすべて放棄して男性にばかりさせたり、浮気を繰り返し、男性から「やめてほしい」と言われるとヒステリックに怒って男性を罵倒（ばとう）したり……。

私は、このようにモラルハラスメントをしてしまう人たちをモラハラリストと呼んでいる。そして、モラハラリストはどんどん増えているように感じる。

モラハラリストは、無意識のうちに他人を所有物のように考えてしまう。

「私の所有物だから、私の言うことを聞いてくれて当然」と思ってしまい、思い通りにならないときには、カッとくで、何が何でも言うことを聞かせないと気がすまない……。

本人は「モラハラをしている」という自覚がない場合が多いため、注意されても直そうとしない。注意などされようものなら逆切れしてさらにモラハラしてしまう。

モラハラリストは、他人を愛せないのだ。自分をこよなく愛し、その「かわいい私」をちやほやしてくれる人を周囲に置いておきたいだけなのだ。自分の思い通りになるおもちゃがほしいだけなのだ。

私は、モラハラの相談を受けると、妙に悲しくなる。それはおそらく、私自身もモラハラを受けてきたからだろう。私の場合には、男女間のモラハラではなく、属するさまざまな場所でのモラハラだけれども。

そんなこともあり、私は、モラハラ撲滅運動を広めたいと思っている。何からはじめようと考えてみたが、まずはブログをはじめることにした。まだほとんど何も書いていない状態だが、これから、さまざまなモラハラを取り上げ、分析していきたいと思う。読者のみなさんからのコメントやトラックバックも、お待ちしております。ぜひ遊びにきてください。http://blog.livedoor.jp/moral-harassment/

（恋愛カウンセラー・作家、大江町出身）

＝次回は1月13日に掲載します

文化短信

★…第29回現代短歌大賞（現代歌人協会主催）は岡野弘彦さんの歌集「バグダッド燃ゆ」（砂子屋書房）と過去の全業績に対し贈られることが決まった。賞金30万円。贈呈式は14日、東京都千代田区の学士会館で。

岡野さんは1924年三重県生まれ。芸術院会員。国学院大栃木短大学長。